

### 第3回加古川流域懇談会 議事概要(案)

開催日時：令和3年5月27日(木)14:00～15:30

場所：WEB方式

委員出欠数：出席5名

#### ～ 議事経過 ～

##### (1) 規約・公開方針の確認

事務局より加古川流域懇談会の規約について確認がなされた。

##### (2) 座長の選出

委員による互選が無かったことから、事務局より大石委員が推薦され、了承が得られた。

##### (3) 主な事業の進捗状況について

事務局より加古川水系河川整備計画の進捗状況について説明がなされた。主な意見および審議内容は以下のとおり。(○：委員発言，→：事務局発言)

○ H28年の正常流量が欠測により30日程度満足できていないが、H29年には欠測が減っている。何か改善したのか。

→ H28年の欠測は6月末から7月にかけて一連の欠測であり機械の不具合と思われる。

○ 耐震照査について、樋門、堰の照査に関する記載はあるが、床止め工等その他横断構造物の耐震照査はどうなっているのか。

→ 床止め工は、対象外となっている。許可工作物の堰等横断構造物は管理者に照査を依頼している。

○ 堤防の耐震性の評価はどのようになっているのか。河川堤防は場所によって断面形状が異なると思うが、止水構造はどういうタイプになっているのか。堤防で改修した箇所では、良質なコア良土の枯渇により均質ではなくなる場合が多いと思うが、どのように耐震解析をしたか気に掛かった。

→ 堤防の耐震照査は平成26年度までに終わっている。堤体の土質は複層の土層構造となっている。

○ 加古川大堰の耐震照査において、支柱の三次元動的解析等を行ったと思うが問題なかったか。

→ 具体的な照査結果については、別途報告させていただく。

○ ダムやため池では地震や水圧差で堤体が壊れることは減多になく、樋管廻りに水みちができて底樋が壊れる場合が多い。樋門ばかりではなく樋管についても確認することも大事である。

→ 毎年出水期前、場合によっては出水期中に樋門・樋管の点検を目視や中に入って行い、適宜補修を行っているところであるが、参考にさせていただく。

- わんど・たまりの再生にあたり、施工前の生物相の調査は行っているか。自然再生として行う場合、事前の現況把握を行い、目標とする生態系を設定し、それに向かって施工を行い、モニタリングしながら順応的管理を行うことが重要である。湿性植物群落等があったと想定されるので、元の環境が損なわれていくことがないように事前調査を行っておくことが大事である。また、モニタリング対象としては、全般的な生物相も配慮して頂きたい。
- モニタリングは施工前後でやっている。また、河川水辺の国勢調査という形で定期的に河川全体を調査している。今後も、元はどういう場所であったかということ踏まえてうえで整備箇所を検討して行きたい。
  
- 洪水流下の支障となる樹木伐採として面積は示されているが、場所としては把握しているのか。輪伐だと思われるが、樹種は主にヤナギか。
- ヤナギ、竹類の他、クヌギ等である。輪伐で実施することで計画しているが、実際は流水を阻害する樹木、地元要望を踏まえて進めている。また、伐採箇所は別途整理したものであるので、別途報告させていただく。
  
- 水利権のうち、慣行水利権から許可水利権に変更されていないものは未だあるのか。残っている慣行水利権は将来的に許可化できそうか。
- 慣行としては2件残っている。法定化できるよう進めているところである。
  
- 流下能力として整備計画目標に達していない箇所として、山陽自動車道橋梁付近や下流部において幾つかあるが、早急に整備されるのか。
- 上下流バランスを考慮し、下流の掘削、浚渫を並行して実施している。山陽道橋梁付近はスポット的に流下能力が不足しているが、背後地が農地であり優先順位は低いと考える。
  
- 22.4k のわんど再生箇所はきれいに造成されているが、加古川流域の河川敷では植生の外来種が見られ、更地にした場合は先ず外来種が入る可能性が高く、本来のわんどの植生が反映されないと思われる。
- 大がかりな造成より本来のわんどを拡張する形で在来種を援助するような方法が必要ではないか。また、指標種としている魚類のカネヒラ、タイリクバラタナゴは二枚貝に産卵する特殊な形態である点で共通するが、産卵する貝の種類が異なる。注目すべき指標種としては細かく選定する方が良い。アドバイザーの意見を参考にすることが望まれる。
- 魚類、植生等、元の状態をよく把握した上で指標種を設定し、在来種がどのように復元できるのかを考えたわんどの整備が必要と考えているので助言いただければと思う。
  
- 魚類の堰堤の遡上については、具体的にどのような種が遡上可能、遡上し難いということが分かるようにした方が良い。加古川では大堰がネックになっているので、大型の堰堤に対する遡上量調査、改善方法を検討して頂きたい。
- 古新堰堤では様々な魚類を対象として様々なタイプの魚道を整備している。今回は全体の個体数を整理した結果を提示しており、種数の整理結果等、見せ方について工夫したい。

以上